

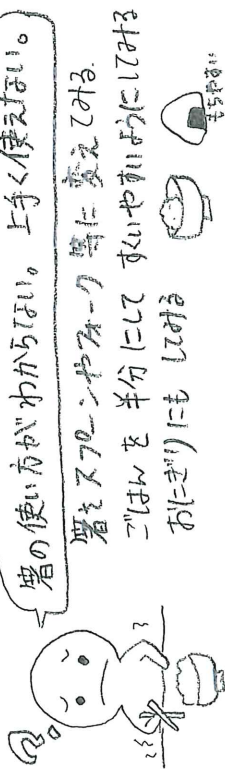


口 月脳血管障害の再発や転倒による大けが事故を  
防げれば、急な悪化をある程度防げます。



口 失行

うごけるのに、日常生活の動作がでこぼこになること



箸をスプーンやフォーク等に変えてみる。  
ごはんを半分にして すいやりおにぎり  
おにぎりにもしめる

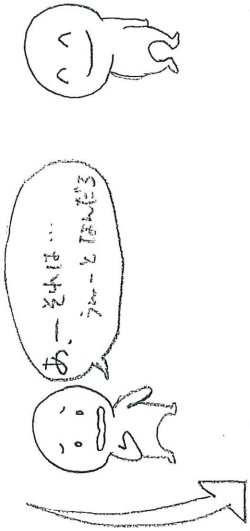


急がず 具体的に  
説明しなから、自分でできる  
ところは、やってみよう。



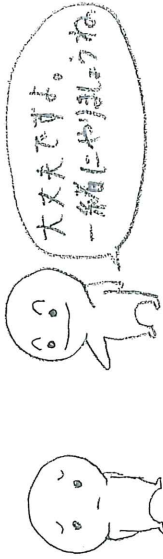
ポイント  
あこらず、急がず、  
優しく声をかけることが  
大切です。

口 失語



笑顔でまっ  
自尊心を傷つけないように  
「もしかして○○ですか？」等  
会話を助けて、あつちをつたわらせる

聴覚や発声に異常はないのに言葉が読めず、聞く、読む、書くことが  
できなくなる



- お 自尊心を傷つけないように声をかける
- お 小さい成功体験を増やす
- お 気晴らししなから、不安をちいさくしましょう。

感情失禁

感情が不安定になること  
症状が進行していくと、ちよとしたことで泣き出したり  
笑いだしたりすることがあります。

ちよとのことで感情が爆発することがあります。



「あつちをつけて」は、環境に合わせた逆転

せんそう ぞく じがた

# 前頭側頭型認知症

脳の前頭葉と側頭葉が萎縮し、血液の低下し様々な症状が引き起こされる病気です。

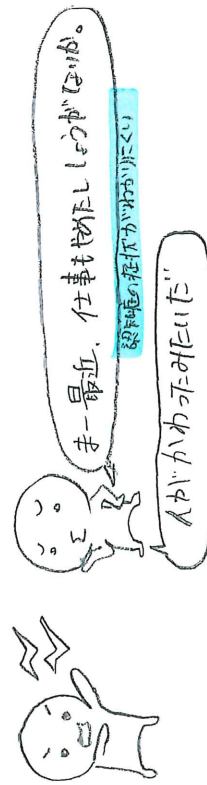


前頭葉は「人格・社会性・言語」

側頭葉は「記憶・聴覚・言語」をつかさどります。

40歳～60歳を発症年齢が若い(身体的に劣衰、自覚が早い)

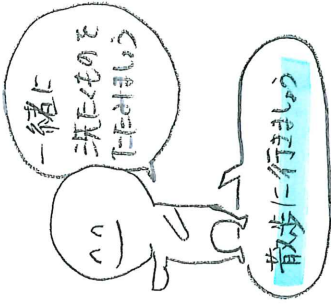
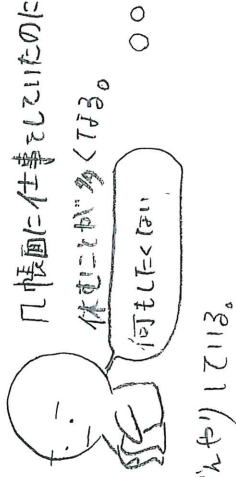
認知度が低く診断やサービスの提供が遅れやすい



周囲は人格が変わったと悩み、病気にと思われにくい

# 初期症状

口意欲の減退



口甘いものを際限なく食べる

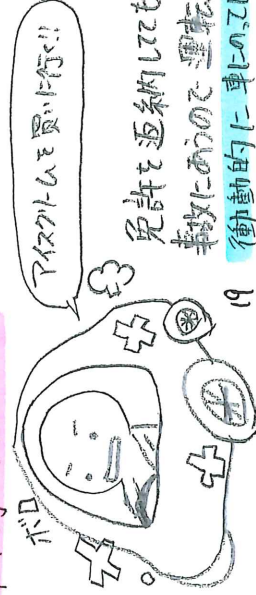


決まった時間に食わずに勝手な良い砂糖を目につく場所におもひほう

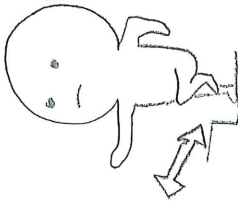
口言語障害



口抑制が交かたない



# 中期症状



□ 同じ行動をくり返す。  
階段のぼらたり おりたり... 花をつんだり...  
同じ道を通り 同じ作業(人の家のゴミポットを押すなど)をくりかえす。

□ 事前に周囲の人に病状を  
話し、理解してもらうことで  
トラブルを小さくすることが出来ます



□ 衝動的には行動が"おええられたい"  
公園や人の家の花壇の花を摘む  
毎日摘みでしよう。

□ 同じ場所をランジでびびる

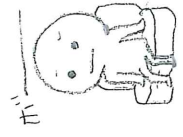


□ 同じ場所を歩くや「同じ洋服を着る」といった  
こだわりの強さもみられる。

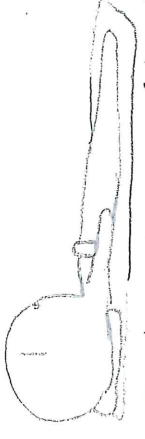
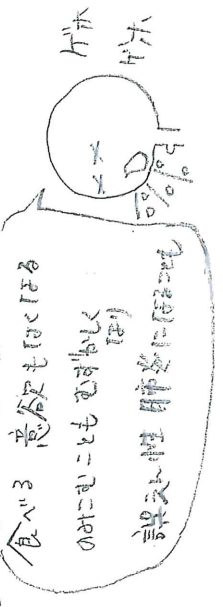
でさだり守り添い 行動をムリに止めない  
危険なときや犯罪に「おかし」な行動に「おかし」なよう  
時には、気をとらなければ「おかし」な介護をする必要があります

# 後期症状

□ 精神機能が低下していく

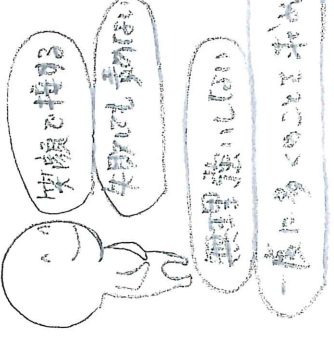


外に出回くたり 部屋の掃除をウロウロする  
行動が単純になる



□ 筋力の低下により 自分で体を動かさせにくくなる。

「こだわる」特性を活かし 趣味や得意なことを取り入れる  
規則正しい 日常生活を送ることで 感情の安定につながる



周囲への理解と

安全の確保を 行うことが  
大切ですよ

